

宝寿寺会陽の起源について

吉備国を語る会 丸谷憲二

1 はじめに

奈良坂山宝寿寺会陽（久米郡美咲町中坵和 634）は西大寺会陽の起源を探るために、研究開始直後の平成4年に訪問しています。訪問理由は『久米郡誌』に「貞観二年（860年）慈覚大師天下泰平人民利福を祈って備前西大寺と同時に創建したもので、古代式の会陽会式の行事を存している。」と記録されているからです。昭和13年迄は住職が常住し、現在は無住で亀甲の長安寺住職が兼務していることすら知らずの訪問でした。

2 シンギの現物確認

調査訪問時にはシンギの現物確認ができませんでした。地元の人から「この木のつるを切っている。」と採取している木の説明を受けサンプルを採取しました。そして植物図鑑で葉の形状から調査しましたが植物名を間違いました。平成17年10月に岡山県教育委員会の『岡山県の会陽の習俗』調査を担当されたのが今木義法氏です。

今木義法氏は「シンギはハナエダ（檜）の小枝をチンチンカズラ（アカメカズラ）で束ねてつくった。ハナエダは決められた家の藪に繁っている一本の木から採るようにかたく定められていた」との報告ですが、私の訪問調査では決められた家のチンチンカズラの本の木からの採取でした。他の寺社のシンギ形状とは異なっており奪い合うようになる前の形態です。



参考文献

『岡山県の会陽の習俗 総合調査報告書』平成19年 岡山県教育委員会 p135p139

『久米郡誌』1923年 久米郡教育会

2.1 現存する最古のシンギ



今木義法氏の調査では慶應二年(1866年)のシンギが残されています。

2.2 副シンギの材質は樫の木

今木義法氏は「副シンギは樫の木を指の太さぐらいに割って、チンチンカズラで三本ほどくくってつくった」と報告すれども写真は公開していません。

『岡山県の会陽の習俗 総合調査報告書』平成 19 年 岡山県教育委員会 p136

2.3 ハナエダとは

ハナエダとはシキミ科の常緑小高木でシキミの別称は墓前や仏前に供えるからだといわれ、和名は植物体が有毒なので悪しき実の意味という説があり、果実の形態が香辛料の八角(大茴香, スターアニス)と似ており、集団中毒が発生したことがあります。

成分	セスキテルペン, フェニルプロパノイド, モノテルペン
薬効と用途	牛馬の皮膚寄生虫駆除に煎液を塗布する。 成分のアニサチン, シキミニン, イリシンは 有毒 です。 誤食すると嘔吐, 下痢, 呼吸障害, 循環器障害などの中毒症状を起こし, 血圧上昇, 昏睡状態を経て死に至る こともあります。

3 チンチンカズラ(アカメカズラ)とは

市街地の中の草地に生える落葉藤本(とうほん)で、雌雄異株(しゅういしゅ)。カミエビ(神衣比)、チンチンカズラ、ピンピンカズラとも呼ばれます。



アオツツラフジ <https://mirusiru.jp/nature/flower/aotsudurafuji>

アオツツラフジは都市部に多く道路端のツツジ(躑躅)などの植え込みやフェンスに絡まっていたり、荒地の際に生えていたり、生え方だけを見ると帰化外来種のように見えますが日本の在来種です。湘南・鎌倉・三浦半島ではありふれた普通種です。

3.1 防己 ぼういの薬効

防己(ぼうい) 大葛藤 おおつづらふじ オオツヅラフジ

生薬名は和防己(わぼうい) 防己(ぼうい)です。

オオツヅラフジの成分は、根や茎にアルカロイドのシノメニン、ジシノメニン、マグノフロリン、シナクチン、ツヅラニン、アクチュミン、マグノフロリン、イソシノメニン、ツヅラニン、ステファリンなどが含まれます。

使用部位はオオツヅラフジの蔓(ツラはツルの古名)、茎、根です。

薬効と服用方法

防己は日本薬局方の漢方処方用薬であり、**鎮痛薬**、**利尿薬**とみなされる処方に配合される。また、**神経痛**、**むくみ**などに煎用するか又は配合剤として用いられます。

防己を服用すると**浮腫**や**関節水腫**、**関節痛**、**神経痛**、**リウマチ**、**脚気**などに効果があります。防己を煎じる場合は、防己約**5グラム**から**10グラム**を水**600cc**から**800cc**の中に入れて**15分**から**20分**程煎じて、煎じ終われば薬草は取り除き**1日**数回に分けて服用します。

やなぎ堂薬局 <http://www.yanagidou.co.jp/syouyaku-yakusou-boui.html>

4 まとめ



今木義法氏は民俗学であり正確に聞き取り記録しています。話し手がチンチンカズラとハナエダの説明を間違えています。私への説明者が正確に記憶していたということです。

慶應二年(1866年)のシンギ形状に注目しました。チンチンカズラの蔓(ツラはツルの古名)がばらされています。チンチンカズラは住職により加持された漢方薬であり、使用中です。

何処にでもあるチンチンカズラが住職の加持を受けると漢方薬に変身します。これが仏教医学、医方明です。